

NPO法人 風の家

+

活動拠点 ぶらっと広島

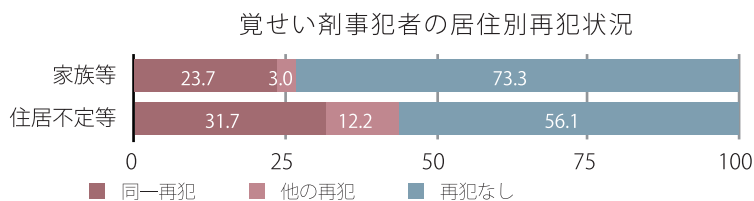
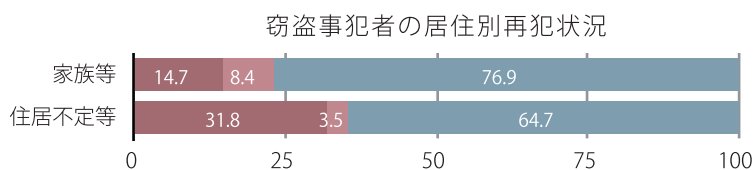
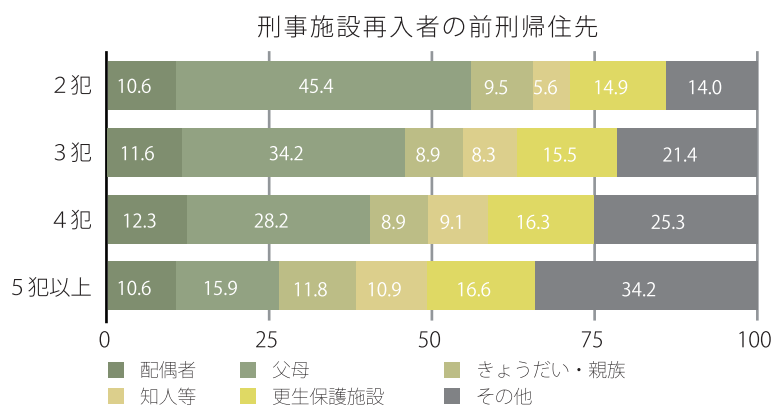


ニュースレター 第1号
2011年1月25日

なぜ犯罪者の社会復帰には居場所の提供が必要なのか？

“ 帰住地がないために再犯に陥りやすいということ ”

矯正施設等の出所者、とりわけ、満期出所者は、社会の中での居場所がなく、そのために再犯に陥りやすいことが指摘されています。例えば平成21年版の犯罪白書では、再犯を重ねる者ほど定まった居住地が無い状態に置かれていた割合が高く、逆に、窃盗や覚せい剤事犯者のうち、住居不定の者はそうでない者に比べ、再犯に至りやすいことが示されています。犯罪のために人間関係が失われ、それによって社会の中での居場所がなくなるだけでなく、そのように帰住先や居場所のないことがまた、再犯のリスクを高めることにもつながっています。再犯を防ぐためには、帰住先の確保と居場所作りが求められているのです。



賛助会員募集

+

寄付のお願い

風の家における活動の一部は、独立行政法人福祉医療機構による社会福祉振興助成事業の支援を受けています。しかし、その活動はさらに多くの方からの力添えを必要としています。また私たちは、この活動がみなさまからの支援を得ることで、地域に根ざしたものとなることを願っております。そのために賛助会員として、あるいは寄付を通じて、この活動を支えていただけるようお願いをしております。ぜひ裏面の連絡先までお問い合わせ下さい。

風の家ニュース

昨年度行なったNPO法人設立申請が、12月22日広島市によって認証され、当団体はNPO法人となることが出来ました。これによって、支援対象者を引き受け一時的に居住させるための部屋を借りる際に、団体の名前で借りることが出来る、必要な経費を入れておく口座を団体名で開設することが出来る、など私たちの活動を個人の集まりとしてではなく、1つの団体として行えるというメリットが生まれます。

それは社会に対しても、利用者に対しても、これが有志の集まり以上の社会の中に位置づけられた団体による支援であることを示すことでもあります。1月現在、当団体の利用者は13名となっており、その数はこれからも増えることが見込まれます。NPO法人となることで新たに生じる義務を、私たちの活動が担う責任であることを自覚しながら、法人として活動の幅を広げていきたいと思っております。今後とも皆様からのご支援の程、よろしく願いいたします。

“居場所が人を社会につなぎとめているということ”

矯正施設を出所する際、多くの人は家族や親戚、知人のもとへと帰っていきます。地域での生活が始まり、あるいは仕事を始めます。そこには迎える人がおり、一緒に暮らす人がおり、一緒に働く人がいます。もしも理想的にいけば、帰住先は人と暮らし、人と語り、人に支えられ、また人を支える、地域の中での居場所となります。再犯へと至る、例えば金銭面での困窮、対人関係の問題、情緒的な混乱、あるいは犯罪者であることのスティグマ、といった要因のいくつかは、この居場所の中で和らいでいくことでしょう。

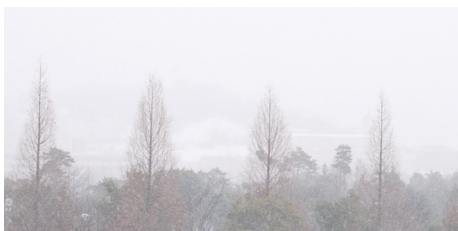
帰住先がないという問題の本質は、この居場所がないということであり、それはつまり、社会とのつながりがないということの意味しています。たとえ帰住先があるとしても、それが居場所としての役割を果たさなければ、社会とのつながりは失われてしまいます。

私たちが現在引き受け、関わりを持っている、ある刑務所出所者がいます。出所に際して、両親を亡くしていた彼は、残された家族のもとへと帰る手筈を整えていました。それは長く音信不通だった先方からの申し出によるもので、半信半疑ながらも彼は期待を胸に出所を迎えました。しかしながら、出所当日の朝、相手の姿はそこになく、知人を通して何とか連絡を取ってみた彼に返ってきたのは、引き受けるつもりはない、という相手の言葉でした。

こうしたことは矯正施設出所者の身にしばしば起こります。帰る場所が自分の意思とは関わりのないところで失われ、同時に期待と希望とが失われます。それは彼が恐れていたことであり、そうなるだろうと思っていたことでもあります。思い描いていた社会復帰の全てが失われ、そして悪い予想こそが現実的なものだという確信が生まれます。居場所の喪失は、社会が敵対的な存在となることでもあるのです。

結局彼は、生活保護を申請するために立ち寄った社会福祉協議会で風の家を紹介されてきました。生活保護の申請を一緒に行うだけでなく、週に何度か雑談をしにぶらっと広島を訪れます。仕事を始める前にボランティアに参加しようと、ボランティアセンターにも行きました。そうして、ぶらっと広島を拠点に行動の範囲を広げています。

非行少年の窃盗と幼少期の剥奪との関係を最初に指摘したのは、イギリスの精神分析家ボウルビーでしたが、彼の提出した愛着理論では、こうした居場所を安全基地と呼んでいます。安全基地とは、そこから外界に出て行き、傷つき疲れたときにはまた戻ってくる、そういう場所を意味します。それがあつて人は癒され、安心感を得て、再び外界へと出て行くことが出来るのです。それは背後で人を支えます。私たちが目指しているのはそうした居場所であり、安全基地であり、そしてつながりであるようなものなのです。



特定非営利活動法人 風の家 + 活動拠点 ぶらっと広島
〒730-0841 広島県広島市中区

連絡先

✉ burattoin@gmail.com

☐ <http://www3.ocn.ne.jp/~kaze/>